

(4) 総合科目Ⅲ

総合科目Ⅲ 科目群D

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1D09011	生命と環境の地球規模課題	1	1.0	3・4	秋C	木2,3	2B309	鈴木 石根	成長を前提とした経済システムがゆらぎ始めている中、生命と環境も悲鳴を上げ始めている。2050年(約30年後)を見通した生命と環境の地球規模の課題の現状とその解決法について、第一線の研究者がリレー形式で受講生との議論を交えながら講義する。	(生物開設) 【受入上限数120名】
1D11011	ジオサイエンスのフロンティア	1	1.0	3・4	春AB	火4	2C310	上松 佐知子, 鎌田 祥仁, 氏家 恒太郎, 興野 純, 角替 敏昭, 上野 健一, 八反地 剛, 加藤 弘亮, 堤 純, 村山 祐司	地球科学(Geoscience)は、地球内部と地球表層における固相、液相、気相の物質およびその移動、そして人間活動に関する実証的な学問である。本講義においては、地球学における最新の研究結果を、わかりやすく解説する。	(地球開設) 【受入上限数120名】
1D12011	数学の最前線:未解決の問題への挑戦	1	1.0	3・4	秋C	月1,2	3A403	寛 知之	数学は常に変化する未解決問題の宝庫である。そのような問題は数学の内部発展の必要性から生じ、また社会的要請からも生まれ、新しい数学を生み出す。このような数学の創造と発展のダイナミクスを、幾つかの話題を通じて解説する。	(数学開設) 【受入上限数200名】
1D13011	現代物理学入門	1	1.0	3・4	春AB	月1	1E102	金谷 和至	物理学を専門としない学生に向け、現代物理学の基礎的な概念や考え方を講義する。基礎的方程式を使い、簡単な物理現象やその法則がどのように表現されているかを学び、方程式を解くことにより何が予言されるかを概観する。	(物理開設) 【受入上限数120名】
1D14024	事例に学ぶ環境安全衛生と化学物質	4	1.0	3・4	夏季休業中	集中	1D201	佐藤 智生	人類は多くの有用な化学製品を製造し利用しているが、そのためには危険で有害な化学物質でも取扱う必要がある。本科目では、総合科目II「安全衛生と化学物質」において解説された化学物質とその取扱作業の危険性、有害性及び環境影響を理解した学生を主対象とし、化学物質を取扱う際に留意すべき事項や手法を具体的な事例に基づいて講義する。また、グループ討論形式により危険予知訓練(演習)も行う。本科目を通して、化学物質取扱作業に起因する事故、健康障害、環境汚染の具体的防止手法を理解し実践できる人材を育成する。	(化学類開設) 9/27(水)、9/28(木)の各9:00-11:45および13:00-17:15、試験は9/29(金)6限 【受入上限数120名】 総合科目III「実践・安全衛生と化学物質」の単位を修得した学生は、履修申請できない。
1D15011	現代物理と先端工学	1	1.0	3・4	春AB	金1	3A207	長谷 宗明	20世紀に、量子力学を始めとした大きな発展を遂げた物理学は、その後も目覚ましい発展を続け、現代の工学に大きな影響を与え、高度情報化社会を支えるさまざまな製品を生み出している。本講義では、現代物理学が、どのように先端の工学に活かされているかを、いくつかの実例を挙げて紹介し、物理学を始めとした自然科学が、工学を通して社会にいかに関与しているかを解説する。3,4年生が、卒業後の進路を選択する際にも大いに参考となる講義をめざす。	(応理開設)応用理工学類学生への受講は認めない。 【受入上限数120名】
1D15021	社会問題を見据えた材料開発とその応用	1	1.0	3・4	秋AB	月1	3A209	金 照榮	現代の科学技術分野におけるめざましい進歩には、常に新物質・新素材の開発が中心的役割を果たしてきた。本科目では、物質・材料科学に焦点を当て、医療・福祉、エネルギー、環境、電子デバイス、航空宇宙などの最先端の工学分野における物質・材料開発の状況や今後の課題について解説する。各自の専門分野をベースにより広い視野から高齢化、エネルギー問題、環境問題、資源問題など様々な社会的な課題を認識し、その解決に向けた材料科学に対する幅広い知識を身につける。	(応理開設)応用理工学類学生への受講は認めない。 【受入上限数120名】
1D16011	環境開発・エネルギー総合工学	1	1.0	3・4	秋A	火3,4	3A308	文字 秀明	一大学講義と自動車工学-工学システム学類開講の講義で得られた知識が自動車の設計/製作にどのように使われるかを例として示し、大学で習う基礎的な学問の必要性和重要性、社会との関連性を再確認する。	(エシス開設)D科目 【受入上限数120名】
1D16021	知的なシステムをつくるII	1	1.0	3・4	秋AB	水6	3A203	伊達 央	近未来の生活環境において人間に使いやすく役立つ知的システムを実現するための、様々な基礎的技術(メカトロニクス、センシング、人工知能、機械学習、ビッグデータ分析、自然言語など)とその応用例(人支援、コミュニケーション支援、デジタルコンテンツなど)について解説する。また、家庭用ロボット・アンドロイド、IoT(internet of things)、デジタルファブリケーション、eコマース、メディアアートなどの興味深い例をとりあげて、これらの知的なシステムが、私たちのライフスタイルや、人と人の関わり方をどのように変えていくかについて様々な視点から考察する。	【受入上限数120名】
1D18011	マルチメディアの舞台裏:コンテンツを創るための実世界指向技術	1	1.0	3・4	春A	月1,2	3A312	古川 宏	インターネットを介して、情報家電・携帯端末・パソコン・放送が融合している。このマルチメディアシステムを生活において最大限に活用するため、その技術的・社会的な舞台裏を覗いてみよう。本科目では、マルチメディア・コンテンツの制作について注目し、コンテンツの生成技法、コミュニケーション技術、ヒューマンインタフェース設計技術などに関し、具体的な応用例などを用いて説明する。	(情報開設) 【受入上限数120名】 総合科目II「マルチメディアの舞台裏III」の単位を修得した学生は、履修申請できない。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1D19011	情報技術と数理工学	1	1.0	3・4	春A	月1,2	共同利用棟A102	久野 誉人	数理工学は情報技術を高度化する際の鍵を握るが、我々の言葉がコンピュータの中でどのように理解・処理されるのか、インターネットなどを通して送受信される画像・音響データがどのように加工・軽量化されるのか、インターネットなどの複雑ネットワークの特徴がどうやって分析されるのか、その数理的な仕組みを概観し、あわせて数理工学の基礎となる最適化とシステム制御について平易に講義する。	情報メディア創成学類学生の受講は認めない。【受入上限数120名】(創成開設)
1D21011	新しい基礎医学における神経科学と免疫研究	1	1.0	3・4	春AB	火1	臨床講義室A	武井 陽介	神経科学と免疫学はともに環境に個体が適応するために必須のシステムである。この科目では、神経科学と免疫学分野の研究を行っている研究者から最先端の基礎医学トピックを学ぶ。研究成果や研究をすすめるロジックを深く理解し、それらがいかんにして疾患の病態理解や治療・予防につながるのかについて考察を深める。生命科学に関心がある医学類以外の学生にも聴講を勧める。	(医学開設)【受入上限数160名】
1D21021	新しい基礎医学における生命科学技術とがん・幹細胞	1	1.0	3・4	秋AB	金1	臨床講義室A	武井 陽介	生命科学技術の進歩は日進月歩であり、がん・幹細胞分野の基礎研究の進歩とあいまって更なる臨床応用が期待されている。この科目では、技術開発とがん・幹細胞分野の研究を行っている研究者から最先端の基礎医学トピックを学び、研究成果や研究をすすめるロジックを深く理解し、それらがいかんにして疾患の病態理解や治療・予防につながるのかについて考察を深める。生命科学に関心がある医学類以外の学生にも聴講を勧める。	(医学開設)【受入上限数160名】
1D23011	生命科学・医学におけるテクノロジーの進歩	1	1.0	3・4	秋C	月1,2	5C316	小池 朗	生命科学におけるテクノロジーはめざましく発展しており、医学分野におけるテクノロジーの進歩は、疾病の診断・治療に素早く還元されている。本講義では、生命科学・医学の専門領域におけるテクノロジーに焦点を当て、生体の機能の評価における最新のテクノロジーを学び、またそれをもとにした最先端の疾病診断・治療について理解する。	(医療開設)1月9日(火)、1月17日(水)、1月22日(月)、1月29日(月)、2月5日(月)の各1・2限【受入上限数120名】

総合科目III 科目群E

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1E01011	言語と社会	1	1.0	3・4	秋C	月1,2	1C210	臼山 利信	我々は言語によって世界を捉え、思いを表現しながら社会生活を営んでいる。言語と社会の関係に関わるさまざまな側面について、特に教育・文化・情報等の学際的な視点から考察する。	(人文開設)西暦奇数年度開講。【受入上限数120名】
1E01034	現代社会の哲学的考察	4	1.0	3・4	秋C	水1,2	1C210	檜垣 良成	現代社会の諸問題を哲学的視点から徹底的に掘り下げる。	(人文開設)西暦奇数年度開講。【受入上限数80名】
1E02011	変動する地域を捉える	1	1.0	3・4	秋AB	月2	2B309	塩谷 哲史	いつの時代・社会においても、人々の生活はそれぞれの地域のなかで、その地域をとりまく環境とのかかわりのなかで営まれてきた。しかし現代、政治や経済、あるいは文化の枠組みは大きく変動しつつある。そのような状況においては、地域というものも固定的に捉えるのではなく、問題に応じた時間的・空間的広がりを設定し、そのなかでそれぞれの営為を追いかけていく必要があるだろう。本講義では、主に日本とアジアを中心とする具体的な事例をもとにしつつ、変わりつつある地域を捉えるための地理学・民俗学・文化人類学・歴史学からの捉え方を紹介し、現代社会に対する学際的な理解を深める。	(比文開設)西暦奇数年度開講。【受講制限数120名】
1E02031	比較文化の探求—名著のすすめ—	1	1.0	3・4	春AB	月2	2B507	中田 元子	人文・文化研究において、文献との出会いは重要である。感銘を受け、学問的に刺激された文献は、研究上のみならず、その人の生き方にも影響を与えることがある。本講義では、グローバル時代において比較文化を探究する教員が自ら選んだ、学生必読の文献を紹介しつつ、高度かつ専門的な視野から文化を読み解く方法を考えていく。	(比文開設)【受入上限数120名】
1E03011	日本とは何かIII	1	1.0	3・4	春AB	月2	2C107	松崎 寛	「日本とは何かIII」では、現代の私たちが自明のものとしている「日本語」「日本文化」の概念に、近年の研究動向を踏まえつつ再検討を加えることで、「日本とは何か」を考えていく。	(日語開設)日本語・日本文学学類学生の履修を認めない。【受入上限数120名】
1E04011	国際社会における戦争と平和	1	1.0	3・4	秋AB	月1	1C210	明石 純一	本授業では、国際社会における戦争・紛争発生メカニズムや、平和実現・安全保障の条件を考察する。戦争と平和に関する具体的諸問題、例えば、9.11後のテロや「対テロ戦争」、国境・地域紛争、日本近隣でも増す軍事的緊張といった題材の多角的検討を通じて、現代の国際社会についての理解を深める。	(社会開設)西暦奇数年度開講。【受入上限数120名】
1E06011	学校を考えるIII	1	1.0	3・4	秋AB	月2	2C404	佐藤 博志、岡本 智周	教育に関する言説が社会に流布している。その中でも、ゆとり概念に着目し、言説を批判的に検討する。今日の教育改革の動向を検討し、ゆとり批判の様々な影響についても考察する。PISA2015の結果を含めて国際比較の視点も組み込みつつ、グローバルに日本の教育改革を検討する。最終的には、教育と世代論に関する見方の視野を広げること意図している。受講生がこれまでの大学生活で培ってきた知識、能力、経験を活用しつつ、自らが社会人になった時の立場も仮定することによって、言説と教育の問題を解き明かし、高度な教養の習得を目指す。	(教育開設)人間学群学生の受講は認めない。講義の一部にディスカッションを取り入れるため、受入れ上限数を80名とする。平成28年度と平成27年度に科目番号1B06031「学校を考えるIII」(総合科目II)の単位を修得した学生は、この授業の履修を認めない。
1E17011	経済学入門III	1	1.0	3・4	秋C	火3,4	3A306	佐野 幸恵、秋山 英三	ミクロとマクロをつないできた統計物理学を背景に、近年発展してきた「社会経済物理」について、その歴史的な流れから最先端の話題まで紹介します。	(社工開設)【受入上限数120名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1E25011	社会のなかの建築デザイン	1	1.0	3・4	秋A	火1,2	5C302	貝島 桃代, 加藤 研	デザインに何が出来るのか? 社会との関わりについて、建築デザインの観点から、デザインの可能性を探る。	(芸術開設)平成28年度までの「社会のなかのデザイン」を履修済みの学生は履修できません【受入上限数120名】
1E25021	スポーツ芸術表現学	1	1.0	3・4	春AB	木6	5C317	太田 圭, 嵯峨 寿, 田中 佐代子, 大原 央聡, 田島 直樹, 山本 美希	「スポーツ芸術」とは「スポーツをテーマとした芸術作品」のことで、本授業では、これらを「創る」「観る」「支える」という3つの立場から捉える。オリンピックの芸術競技をはじめとした美術史におけるスポーツ芸術、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」、現代におけるスポーツとデザインの関わり等を、アーティスト・デザイナー・漫画家等の多様な視点から学び、新しいスポーツ芸術の表現について考える。	(芸術開設)4/13-6/22【受入上限数120名】

総合科目III 科目群F

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1F05014	国際学を学ぶIII	4	1.0	3・4	春AB	月1	3A301	奥島 真一郎	グローバル化が進捗し、環境問題や人口問題が深刻さを増すなか、国際社会で生じる諸現象について理解することが求められている。本講義では、グローバルな対応が求められる国際社会の諸課題に対して、人文・社会科学や情報・環境学における様々な視点や方法からアプローチしつつ、今後の国際社会の在り方について理解と考察を深めることを目的とする。この「国際学を学ぶIII」では、「国際学を学ぶI」及び「国際学を学ぶII」で学んだ国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、情報・環境学に関する基礎知識を発展させる。授業はPBLあるいはグループワーク形式を採り、グループごとに設定したリサーチトピックについて、課題の設定、課題の解決に向けた文献講読や資料収集、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、理解を深める。	*履修は「国際学を学ぶI」及び「国際学を学ぶII」を履修済みの者に限る。なお、国際総合学類生の受講は認めない。(国際開設)【受入上限数60名】
1F07011	心のしくみを解き明かすニューロサイエンス	1	1.0	3・4	春AB	月2	2A411	山田 一夫	21世紀の科学の最大のテーマである「こころ」の理解を目指すニューロサイエンス(神経科学)は、心理学、行動学、分子生物学、細胞生物学、解剖学、生理学、薬理学、臨床医学、工学、社会科学等を包括する学際的な学問領域として現在も発展し続けている。本講義では、ニューロサイエンスにおける最新の研究知見を紹介し、今まさに明らかにされつつある「こころ」のメカニズムについて理解を深める。なお一部の講義は、ニューロサイエンスでの共通言語である英語で行う。	(心理開設)【受入上限数200名】
1F08011	障害科学から見た社会—インクルーシブ社会の一員としての「自分」—	1	1.0	3・4	春AB	金4	2B309	米田 宏樹, 岡 典子, 竹田 一則, 鄭仁豪, 野呂 文行, 高橋 正雄, 名川 勝, 八重田 淳, 猪俣 朋恵	「人間が社会的に自立するとはどういうことか」、「社会に参加し、自己実現を図るとはどういうことなのか」について、障害のある人への教育的・福祉的支援や、障害のある人と社会との関係を学ぶことをとおして、受講生に考えてもらおう。さらに、誰もが社会参加し自己実現を図ることのできるインクルーシブ社会の実現のために、受講生各人が社会の構成員として自分にできることを、自分の学士力に照らして考える機会を提供する。	(障害開設) 障害科学類生の受講は認めない。また、総合科目II「障害とともに生きるIII」及び人間学群コア科目「障害科学II」を履修済みの者の受講も認めない。【受入上限数120名】
1F17021	都市・地域・環境を探るIII	1	1.0	3・4	秋A	木1,2	3A207	大澤 義明, 藤井 さやか	近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。本科目では、総合科目「都市・地域・環境を探るI,II」の発展形として、都市計画やまちづくりの実践事例を手掛かりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのようにかかわっていくべきかを考える。	(社工開設)平成26年度以前に総合科目II「IC17121 都市・地域・環境を探るIII」の単位を修得した学生は履修不可。【受入上限数120名】
1F20011	記録遺産学	1	1.0	3・4	春C	集中	7A205	水嶋 英治, 白井 哲哉, 辻 泰明, 松本 浩一, パーレイ シェフ, エドワード, 江前 敏晴, 石田 大平	文化財や文化的な資料を対象に、どのように記録を作成し、学術資料として管理していくかを解説する。記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を取り上げ、アーカイブズ学・博物館学の視点から、古文書を含む歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)を取り上げ、ドキュメンテーション(記録管理)の方法論を学ぶ。	(知識開設)【受入上限数120名】
1F22011	健康と社会	1	1.0	3・4	春A	月5,6	3A209	三木 明子, 柴山 大賀, 山海 知子, 萩野谷 浩美, 山下 美智代	現代の少子高齢化の社会構造やストレス社会において、人々に様々な健康影響が生じている。今回は、自殺、がん、糖尿病などの健康問題を取り上げ、その介入アプローチや疾病予防のための健康づくり、さらにはセルフケアという視点での考察を通じ、働き方や生活の仕方を直す機会とし、今後のあり方を探る。	(看護開設)【受入上限数120名】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1F24011	スポーツジャーナリズム	1	1.0	3・4	秋AB	月6	5C213	嵯峨 寿	スポーツの普及・発展に多大な影響をおよぼす「スポーツジャーナリズム(放送、新聞、出版など)」について、それが用いる表現、手法、取材、編集などを切り口に、海外や過去の事例との比較による分析と考察を通じ、わが国のスポーツジャーナリズムの現状と喫緊の課題を浮き彫りにし、これからの望ましいあり方を探る。	(体育専門学群開設)【受入上限数120名】

総合科目III 科目群G

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
1G10011	アカデミック・コミュニケーション1-伝えるための基礎-	1	1.0	3・4	春AB	月2	1E102	野村 港二	これから、論文執筆や口頭発表の機会が増えるみなさんと、単なる発表のテクニックではなく、専門的な学問の内容を伝える際に必要なことは何かを一緒に考えます。論拠を持って、事実と意見を分けて、時には気持ちをこめて、伝えるためには、どんな準備が必要なのでしょう。	(資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目IIの1G10081 アカデミック・コミュニケーション1、1G10091アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】
1G10021	アカデミック・コミュニケーション2-伝えるための基礎-	1	1.0	3・4	秋AB	月2	1E102	野村 港二	口頭発表の原稿と、論文の原稿は、どのように書き分けるべきでしょうか。スライドやポスターなどの効果的なデザインとはどのようなものでしょうか。そして、そもそも伝わり、分かるとは、生理学的にはどのような脳の活動なのでしょう。この講義では、専門的な内容を誰にでも伝わるように発信するという、高学年生に必要な考え方と方法を紹介します。	(資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目IIの1G10081 アカデミック・コミュニケーション1、1G10091アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】
1G24014	グローバルリーダー養成講座	4	1.0	3・4	春AB	火5	5C416	竹村 富士徳	自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学での目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。 ・文化や慣習の違いの仕組み、価値観や信念形成の仕組みについて理解する。また、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。	(体育開設)【受入上限数120名】
1G26031	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義:社会基礎学—グローバル人材に社会が求める教養—	1	1.0	3・4	秋AB	集中	春日講堂	五十嵐 浩也、佐藤 忍	いま世界では、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT技術の進歩などにより、人材や情報、資金が国境を越えて行きか、同時に国や都市・地域間の競争が激化しています。一方で少子高齢化や地球規模での環境問題、資源エネルギー問題など、世界を取り巻く様々なグローバルアジェンダに対処していくことも求められています。 この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、高年次の学群生を対象に、これまで学んできた教養や専門性を基礎に、社会で活躍する上において求められる総合的な基礎力や想像力、構想力、分野を超えた広い視野の向上をサポートします。	(教養教育機構企画)(教育企画室企画)10/14, 10/28, 11/11, 11/25, 12/2【受入上限数200名】

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義 社会基礎学～グローバル人材に社会が求める教養

開講区分 : 総合科目III
 開設学期・曜日時限 : 秋学期AB 土曜日13:30～
 教室 : 秋学期AB:春日講堂(春日エリア)
 オーガナイザー : 秋学期AB:五十嵐浩也(芸術系教授 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長)

※講義担当者等は都合により変更となる場合があります。

講義日程	No.	講義担当者	(所属)	講義題目	
10月14日		導入講義	三浦 潔司	JAPIC 常務理事	【導入講義】 連続リレー講義の意味・意義と狙い
	① ②	パネリスト	進藤 秀夫	内閣府 大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)	【パネルディスカッション】 【第1部】 グローバル化とは何か？ グローバル化の中で日本は？
			太田 誠	21世紀政策研究所 事務局長	【第2部】 学生は何を学び、何を身に付けるべきか？
10月28日	③	通常講義	野田 由美子	PwCアドバイザリー合同会社 パートナー インフラ・PPP部門統括、都市ソリューションセンター長	都市ソリューションの輸出
	④	通常講義	佐々木 啓介	経済産業省 商務情報政策局 サービス政策課 課長	GDP600兆円に向けた経済産業省の取組
11月11日	⑤	通常講義	島崎 豊	丸紅(株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長	総合商社の活動、国際情勢、少子高齢化の現実
	⑥	通常講義	岡部 央	(一社)共同通信社 編集局 次長	日本経済の展望と課題
11月25日	⑦	通常講義	右田 彰雄	新日鉄住金(株) 常務執行役員 人事労政部長	(未定)
	⑧	通常講義	鈴木 敦夫	防衛省 大臣官房審議官	日本の安全保障環境と防衛政策
12月2日	⑨	通常講義	森 民夫	前全国市長会 会長・前長岡市長	地方自治の視点から社会資本整備を考える
	⑩	パネリスト	森 民夫	前全国市長会 会長・前長岡市長	【パネルディスカッション】 社会資本整備と構造改革から見た我が国の成長戦略
			中原 淳	首都高速道路(株) 取締役常務執行役員	
			平石 和昭	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株) 副社長	
12月16日		期末試験			